

2015年11月5日「何が神の御旨であるか」

< 聖書箇所 > 「ローマ人への手紙 12章 1節～2節」

兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

< 説教抜粋 > 「何が神の御旨であるか」

今日の説教の題名は、「何が神の御旨であるか」です。聖書の箇所は、ローマ人への手紙 12章 1節～2節です。「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」。

ここには「礼拝」という言葉が書かれています。礼拝は、一週間に一回、神様に捧げる尊い時間です。聖書の他の箇所には、「霊とまことによる礼拝」という言葉があります。つまり、礼拝には、神霊的な側面と真理の側面があるのです。

ここで、真理とは、本心が求めるものが何かを教えてくれるものです。ですから、その答えは外側にあるのではなく、むしろ私たちの内側にあるのです。私たちは、本心が何を求めているのかを探し出してゆかなければなりません。

広大無辺な宇宙を研究するのと同様、もしかしたらそれ以上の価値が、私たちの内面にひそんでいるのです。ともすれば私たちは、他を犠牲にしてまでも自分自身の「我」を貫いてしまうことがあります。しかし、「我」を貫いたところで、そこで得られる満足感は一瞬でしかありません。それ以上に良心の呵責は大きいものがあります。

こうした自己中心的な価値観とは妥協してはなりません。「むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ」てゆくべきなのです。そして、「何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべき」だということです。礼拝を通じて、私たちは、内在する真実と向き合い、それを強めてゆくべきなのです。